

令和5年第4回定例
夕張市議会会議録
令和5年12月6日(水曜日)
午前10時30分開議

◎議事日程

第 1 一般質問

◎出席議員 (8名)

徳 谷 康 憲 君
荒 井 周 司 君
工 藤 政 則 君
君 島 孝 夫 君
櫻 井 暁 君
千 葉 勝 君
高 間 澄 子 君
大 山 修 二 君

◎欠席議員 (0名)

午前10時30分 開議

●議長 大山修二君 これより、令和5年第4回定例夕張市議会第2日目の会議を開きます。

●議長 大山修二君 本日の出席議員は8名、全員であります。

●議長 大山修二君 本日の会議録署名議員は、会議規則第125条の規定により

高間議員

徳谷議員

を指名いたします。

●議長 大山修二君 ここで、事務局長から諸般の報告をいたします。

●事務局長 佐藤浩一君 報告いたします。

本定例市議会に出席を求めた説明員の一覧につきましては、先に報告のとおりであります。

なお、菊田地域振興課長は所用のため、石黒消防長は病気のため、本日出席できない旨の届出がなされております。

以上で報告を終わります。

「別紙」

市長 厚 谷 司 君
教育長 小 林 広 明 君

◎市長の委嘱を受けて出席した者の職・氏名

副市長 吉 崎 仁 司 君
総務企画課長 芝 木 誠 二 君
地域振興課長 菊 田 大 介 君
財政課長 板 垣 克 巳 君
税務課長 秋 山 俊 輔 君
建設課長 押野見 正 浩 君
土木課長 阿 部 充 雅 君
上下水道課長 小 峰 健 一 君
市民課長 外 崎 伸 一 君
保健福祉課長 鈴 木 茂 徳 君
生活福祉課長兼福祉事務所長

平 塚 浩 一 君
消防長 石 黒 友 幹 君
消防次長 千 葉 恭 久 君

◎教育委員会教育長の委嘱を受けて出席した者の職・氏名

教育課長 堀 靖 樹 君

◎選挙管理委員会委員長の委嘱を受けて出席した者の職・氏名

事務局長 芝 木 誠 二 君

◎農業委員会会長の委嘱を受けて出席した者の職・氏名

事務局長 中 川 雅 俊 君

◎監査委員の委嘱を受けて出席した者の職・氏名

事務局長 佐 藤 浩 一 君

◎本議会の書記の職・氏名

事務局長 佐 藤 浩 一 君
書記 山 下 倫 弘 君
書記 増 井 菜々実 君

●議長 大山修二君 本日の日程は、お手元に配付しているプリントのとおりであります。

それでは、直ちに、日程に従って会議を進行いたします。

●議長 大山修二君 日程第1、一般質問を行います。

一般質問の通告は5名、9件であります。

質問の順序は、千葉議員、櫻井議員、君島議員、荒井議員、徳谷議員であります。

それでは、千葉議員の質問を許します。

千葉議員。

●千葉 勝君（登壇） 千葉勝です。通告に従いまして、2件、5点について一般質問をします。

最初に、本市の人口流出の要因をどう分析し、どのような対策をオールタ張で取り組もうとお考えなのか、お伺いいたします。

令和5年7月25日に総務省が発表した令和5年1月1日現在の住民基本台帳に基づく人口動態及び世帯数調査で、夕張市の人口は前年より362人減の6,729人、減少率4.62%は全国の市の人口減少率で最大で、転出者数から転入者数を引いた社会減の減少率は2.0%で最多、死亡者数から出生者数13人を引いた自然減の減少率は2.62%で、本市の人口減少が進んでいる状況が明らかになっています。

厚谷市長は6月の定例会の所信表明で、夕張市は、今、財政再建のゴールが見え始めた一方で、人口流出、少子高齢化、老朽化したインフラ整備など様々な課題が山積しており、この解決に向けては、行政、議会、市民が一体となったオールタ張の体制で取り組み、この状況を打開していかなければなりませんと強い決意を述べられています。

また、4月の市長選挙公約で、人口流出は地域の衰退に直結することから、流出させないため、住みたくなる魅力づくりに資する施策を早期に着手すると表明していました。

そこで、本市の人口流出の要因をどう分析し、どの

ような対策をオールタ張で取り組もうとお考えなのか、お伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 （登壇） 千葉議員の人口減少対策に関するご質問にお答えをいたします。

ただいま議員のほうからもございましたが、本年6月の定例市議会におきまして、私の所信表明の冒頭で、人口流出、少子高齢化、老朽化したインフラなど様々な課題が山積をし、この解決のためにはオールタ張の体制で取り組み、状況を打開していかなければならない、このように述べたところでございます。

議員がおっしゃられますとおり、夕張市は全国で2番目に人口が少ない都市であり、かつ人口減少率も毎年全国の上位にある状況と認識をしております。

この人口減少の要素といたしまして、自然減、社会減、この二つが挙げられますが、本市の場合、いずれの減少率も全国の都市において上位に位置しております。

自然減が高くなる要因につきましては、高齢化率が非常に高い本市において、毎年一定数の方がお亡くなりになっていることがその要因と考えます。

また一方、社会減については、転出する方々の個別の事情、これがありますとともに、本市を取り巻く社会的要因によって上下するものでございまして、例えば本市が財政再建団体入りをした時期は急激に減少率が上昇したほか、近年ではホテル、スキー場、食品工場の閉鎖が重なった際に上昇する、このような結果となっております。

規模の大小こそありますけれども、人口減少は全国の過疎自治体全てが向き合っている課題である一方、解決のための特効薬を見つけることは容易ではないと認識をしております。

しかしながら、人口減少のうち、特に社会減は努力次第で改善の方向に向けることが可能とも考えてございますので、その方策の一つとして、私は住民の満足度を向上させる、住んでよかったと思うまちづくりを行うことが大切であると考えております。

私は、所信表明におきまして、福祉、教育、経済、

安全、安心など5つの約束を皆様といたしました。この約束全てが、夕張に今住んでおられる方々の居住満足度につながるものでございます。この約束を地道に実行していくことが、現在、私ができる人口減少対策であると考えております。

そのため、市の政策について、今までも可能な限り、議会、市民の皆様との情報共有に努めてございますが、今後も一層の推進を図った上で、皆様のご理解とご協力をいただきながら、まさしくオール夕張の体制で私が目指す施策を進めて参りたいと考えております。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。
千葉議員。

●千葉 勝君 ただいま市長から5つの約束をしたことで住民に対して居住満足度に資する考えというように、そういう政策を進めていきたいというようにご回答だったのですけれども、本市の平成30年末の人口が8,087人で、令和元年から令和4年までの出生は72人、死亡が771人、転入が883人、転出が1,533人で、自然減669人、社会減650人減で、令和4年末の人口は6,729人で、この4年間で1,358人も減少しています。

人口減少の要因としては、市長も先ほどから答弁がありましたけれども、進学、就職、転勤、転職、退職、市外の病院に入院、高齢で市外の子供と暮らす、また、市外に通院したいが、公共交通が不便なので転出する等が考えられます。

本市における人口減少対策として、子育て世帯への経済的負担の軽減、市外の通勤者の夕張市に転居するための民間賃貸マンション、アパートの建設、定住促進の課題である持家率の低さや空き家の活用を図るため、住宅取得やリフォーム助成金事業を行っております。

民間賃貸マンション、アパート建設では、令和元年度まで、11棟、70戸を建設し、入居者の70%が市外からの転入者、また令和3年度までに新築8戸、集合住宅取得18戸、リフォーム24戸で、市外からの新築・中古住宅取得は2件で、90%が子育て世帯となってい

まして、若者の転入促進に一定程度つながっているのではないかと考えます。

そこで、市長の公約であります人口流出は地域の衰退に直結することから、流出させないため、住みたくなる魅力づくりに資する施策と戦略、最終年度、市外からの若者転入促進策について、どのようなお考えなのか、お伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 千葉議員の再質問にお答えをいたします。

ただいま魅力的な住宅の今後の建設に係るご質問をいただいたところでございますけれども、現在、市といたしましては、老朽化した市営住宅からの移転誘導を計画的に実施をしてございまして、希望の多い移転先であります南清水沢、紅葉山地区、こちらに不足が生じておりますことから、現在、新たな受皿として、市営住宅建設または民間賃貸住宅建設促進、この必要性について検討をしているところでございます。

具体的には、令和3年度に策定をいたしました市営住宅等長寿命化計画の見直し、こちらを令和7年度に行う予定でございまして、その中で人口動態、必要とする戸数、それから議員からもご案内のございました魅力ある住宅環境等を十分に協議をし、検討を行うこととしております。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。
千葉議員。

●千葉 勝君 今、市長から市営住宅の建設促進等を今後も進めていきたいということでありますので、よろしくお願いしたいと思います。

第2期地方版人口ビジョン作成時に行った中高生への就業後の夕張市への定住意向調査で、夕張に住んでいたい、希望する職業では難しいとの回答が中学生で21.3%、高校生で29.1%いました。

夕張高校の令和2年度から4年度までの3年間の卒業生は63名で、就職した生徒25名で、夕張市内に就職した生徒は4名でした。

夕張市内に就職したいが、希望する職業がないため

に、市外に転職し転出していると考えます。

そこで、定住意向調査にもあります生徒が希望する就職先の企業誘致等の取組と夕張市出身者のUターン、Iターン推進に向けた取組も重要かと考えますが、市長のお考えをお伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 千葉議員の再質問にお答えをいたします。

夕張高校の高校生の地元就職への関心度の向上、それから、職業に対する意識醸成、これを促進することによりまして、地元企業の人材確保を推進する、このことを目的にいたしまして、空知管内に事業所を有する企業によりまして空知管内高校生を対象にした地元企業合同説明会、これは空知総合振興局が主催をしておりますものでございまして、令和3年度から令和5年度にかけて実施をしているものでございます。

こちらには夕張市からも積極的に参加を呼びかけまして、市内からシチズン夕張が参加をしているところでございます。

また、令和5年度から奨学金返還支援制度を導入いたしました。夕張市内に居住、就労することを条件に、最大5年間で120万円の補助をするというものでございますが、12月1日時点では、今のところ、利用者がいないということでございますけれども、こちらの制度については、市内の企業様からも高い評価をいただいておりますので、人材確保の策としては有効であるという話を伺っているところでございますので、企業さんとも連携しながら、関係の生徒さん、あるいは保護者の皆さん方にも、引き続きこの活用も含めた情報提供を行っていきたくて考えております。

また、夕張高校におきましては、ご承知をいただいている部分があるかというふうに思いますが、地元事業者と共同で商品開発を行う北海道CLASSプロジェクト、それから、総合的な探求の時間の中で、地元企業を含めて夕張を知る授業でありますとか、市役所へのインターンシップ、その他、市内の多くの企業でのインターンシップ受入れなどにおきましても、夕張市として最大限協力しながら橋渡し役も担っているところ

でございます。

また、市内の企業におかれましては、企業名までは申し上げませんが、ぜひ夕張高校の生徒さんをお引き受けをしたい、そして、1従業員ということではなくて、将来はやはり会社を担っていただくような幹部を企業としてしっかり育てていきたいというご意向をいただいている、そういった事例もございますので、関係者の皆様方とこれからも連携を図りながら取り組んで参りたいと考えております。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

千葉議員。

●千葉 勝君 大変いい制度の奨学金返還制度なのですが、今市長からありましたように、利用者はいないようでありますけれども、今後とも情報発信をしていただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

次に、夕張市の若者の人口流出の壁は、18歳で高校を卒業すると同時に、ほとんどの生徒が夕張から転出して離れていくときだと考えます。

そこで、夕張市から若者の人口流出をさせないための定住を応援する通学支援補助制度についてお伺いいたします。

夕張高校の令和2年度から4年度までの3年間の卒業生は63名で、大学、専門学校に37名が主に札幌市内の学校に進学し、夕張から転出しています。

札幌で大学生が一人暮らしするのに1か月の平均生活費は10万円ぐらい必要となっております。

若者が市内で生活し、家族や友人、地元の企業、地域社会と関わる機会を増やすことで、地元での就職を促進し、若者の定住と地域社会や産業を支える人材確保を図ることを目的に、大学、専門学校などを含む市外の大学に通う学生に、地元から通えるよう、通学費の補助を行う制度の導入を行っている自治体があります。

北海道では、白老町が、白老町から通学する大学生等の保護者に対して、白老町に居住し、生活の基盤が町内にあり、町外の大学等へ鉄道で通学定期券を利用

して通学していることが条件で、1か月当たりの通学定期券の購入金額から1万5,000円を引いた2分の1の額、上限1か月当たり1万円を補助する制度を令和5年7月から実施しています。

また、静岡県静岡市は市外の大学に進学した学生に対して通学費用の一部を貸与する制度、静岡県小山町では助成金という形で事業が行われております。

白老町と夕張市の環境は、白老町から札幌までの特急での移動時間と、夕張市から札幌に通学する特急での移動時間も1時間強で変わりがないと考えます。

現在、JR北海道の特急定期券、かよエールの新夕張札幌間通学定期券、1か月4万3,390円を利用すれば、千歳、札幌も1時間で通学可能な場所と考えます。

そこで、夕張においても、若者の定住と地域社会や産業を支える人材確保のために白老町同様の通学支援補助制度を導入する考えがないか、市長の見解をお伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 千葉議員の再質問にお答えいたします。

ただいまご質問いただいた内容につきまして、本市の地理的な条件から、これまで市内に居住した上で大学、専門学校に通学するということについては、具体的に学校からのご相談でありますとか、また市としてもそういった事例について想定をしていなかったものでございます。

今後、その可能性も含めまして、夕張高校、それから学生さんとも意見交換をするなど、研究をして参りたいと、そのように考えます。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

千葉議員。

●千葉 勝君 今後、研究をしていきたいというご答弁でしたけれども、では、夕張市において、高校を卒業した若者の転出抑制に関わる政策について、私自身は行っていないと考えますが、現状と今後について、市長のお考えをお聞かせ願いたいのですけれども、よろしくお伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 千葉議員の再質問にお答えをいたします。

議員のほうからご指摘がございましたとおり、これまで市内企業への就職促進に係る情報提供でありますとか、イベント開催等の取組、これは行っておりまして、高校卒業者の市外転出を積極的に抑制する、させるというまでの取組は実施をしてございません。

一方で、高校魅力化事業の取組におきましては、課題先進地域、この夕張で学び、夕張から北海道、日本、そして世界に進出する人材を輩出することをプロジェクトビジョンに掲げているところでございます。

夕張で学んだことを生かすため、広い世界へと進出し貢献をした人材が、再度夕張に戻ってきたくなくなるようなまちづくりを目指して参りたいと考えますとともに、そうした人材を多く輩出するべく、高校魅力化事業を鋭意進めて参りたいと考えております。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

千葉議員。

●千葉 勝君 今後のまちを維持する上で人口減少は最重要課題の一つでありますので、若者の定住と地域社会や産業を支える人材確保のためにも、通学支援制度の導入について、研究ではなく検討をよろしくお願ひしたいと思います。

次に、地域資源を活用した交流人口の拡大についてお伺いいたします。

夕張市は、札幌や新千歳空港から1時間強の距離であり、新千歳空港から富良野、旭川へ抜ける観光ルートの中に位置しているという地理的優位性を生かし、総合戦略で少しでも多くの人々に夕張へ足を運んでもらえるよう、地域資源の魅力の洗い出しや情報発信の一元化、魅力的な体験型観光を推進して、リピーター客の増加を図ることで、令和6年の観光入込客数60万人という目標を達成すべく、取り組まれております。

目標達成に向けて、この間、観光ホームページの更新、観光案内看板の整備、市内観光マップの更新作業等に取り組まれ、令和4年度の夕張市の観光客数は23

万6,000人で、前年度の19万4,000人より4万人も増えています。

本年は、シューパロ湖を利用した「ゆうばり de 冬あそび」や「沈んだ街あるき」「夕張バリバリメロンラン」「ゆうばり夏まつり」や「夕張メロン祭り」など、多くのイベントが開催されています。

そこで、戦略策定後に宿泊施設の休業という想定外の事態があったことを踏まえ、目標達成に向けて戦略最終年度をどのような考えで取り組まれようとしているのか、お伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 千葉議員の地域資源を活用した交流人口の拡大についてのご質問にお答えをいたします。

千葉議員ご指摘のとおり、現行の総合戦略策定以降、大型施設の休業のほか、新型コロナの影響により来場者数の減少など、想定外の事態が重なりましたことで、交流人口の拡大に多大な影響が生じてございます。

令和6年の観光入込客数60万人という目標達成は厳しい、難しい状況であることは事実でございます。

一方、直近の観光入込客数の実績、こちらをご紹介しますと、令和3年度が約19万4,000人、令和4年度が約23万6,000人、本年度に関しましては、9月末時点でございますけれども、約15万3,000人になってございまして、これは、昨年同期比との比較におきまして、約8%多い入込客数となっております。確実に入込客数は回復してきている状況と言えるというふうに考えております。

このような状況を踏まえまして、現行の総合戦略の最終年度を迎えるに当たりましては、これまでの成果、これをしっかり検証するとともに、引き続き市内の地域資源を魅力的に磨き上げていながら、更なる交流人口の拡大に取り組んで参りたいと考えております。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

千葉議員。

●千葉 勝君 60万人の目標達成は厳しく難しい

状況であるという回答ですけれども、リピーター客の増加を図り、交流人口の拡大を目指すには、観光の一元化とイベント情報の一元化を行うことで交流人口の拡大につながると考えますので、一元化に向けた取組を今後ともよろしくお願いしたいと思います。

次に、道の駅の魅力向上についてお伺いいたします。

道の駅は、道路利用者に安全で快適な道路交通環境を提供することや地域振興の場となることを目的に一般道に設けられる休憩施設で、設置者となる市町村等からの申請を受け、国土交通省において登録を行っています。

道の駅として登録されるには、24時間無料で利用できる駐車場とトイレ、道路情報、地域の観光情報の提供の場、地域振興のための施設を備えている必要があります。

また、災害の多い我が国において、道の駅は防災機能としての役割も大いに期待されております。

道の駅夕張メロードは、夕張市が施設設備を行う単独型で国道274号沿いのJA夕張市メロード店内に平成23年6月に整備され、管理運営は道の駅夕張メロード運営協議会へ委託していると認識しております。

道の駅夕張メロードは、夕張市の南の玄関口として、その果たす役割は非常に大きいものと考えられますが、現在、平成30年9月に発生した北海道胆振東部地震により、トイレが損傷し使用不可能となり撤去されたため、代替としてJR新夕張駅に併設しているトイレを24時間トイレとして借用している状況であります。

また、駐車場も狭く大型バスが駐車できない休日があるなど、利用者には大変不便をかけていると考えますと、南の玄関口としての役割を果たしているのかと考えます。

第2期地方版総合戦略において具体的に取り組む重要施策として位置づけられていて、道の駅機能の維持と更なる魅力向上に向けての強化を図るためには、トイレの再整備をはじめとした課題の解決が必要不可欠であると考えます。

市長は、所信表明の中で、道の駅については市内の周遊を促進し交流人口の拡大につなげていくため、運

営協議会などと連携し魅力向上の取組を進めて参りましたが、今後、更なる魅力向上に向けて、周辺地域を含めた施設整備や運営体制の強化を図っていく必要があるため、引き続き、国などに対して積極的な調整に努めるとともに、民間企業の参画も促進させるなど、市が先頭となって多方面と連携しながら取組を進めて参りますと述べています。

令和3年第1回定例会で、高間議員の一般質問で、道の駅魅力向上は、総合戦略で具体的に取組む重要施策に位置づけしている。トイレの再整備をはじめとした課題解決が必要不可欠であり、国の担当部署と連携を図り、可能な限り早期に課題解決の道筋をつけたいと答弁しております。

そこで、これまでの進捗状況について伺います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 千葉議員の道の駅の魅力向上策に関するご質問にお答えいたします。

まず、道の駅の魅力向上策についてでございますが、直近では令和4年度に市内事業者の経済活性化を目的に出展及び出品の募集を開始し、新規参入できる環境を整備するとともに、情報発信強化として来場者の多い土日祝日をメインに、有人の観光案内窓口を設置したほか、本年8月には過去にJA夕張市が主催しておりましたイベントを引き継ぐ形で、道の駅夕張メロウドフェスタを実施しております。

また、課題となっておりますトイレの再整備等につきましては、これまで国の担当部署との検討会議を重ねてきておりますけれども、現段階では、残念ながら実現には至っていない状況となっております。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

千葉議員。

●千葉 勝君 トイレ等の問題については現段階では解決されていないということなのですが、この間、道の駅夕張メロウドで、今、市長の答弁がありましたように、特産品売場、休憩場所、情報発信機能、そして観光案内窓口等の設置をして事業を行ってきて

魅力を高めていくとともに、夕張の魅力を伝える拠点として情報発信の強化に努めてきたと認識していますが、これらの事業が総合戦略にもあります道の駅としての魅力を高め、夕張の魅力を伝える拠点としての情報発信の強化にどのようにつながって、交流人口の拡大につながったのかについて伺います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 千葉議員の道の駅での情報発信による交流人口の拡大に関する再質問にお答えいたします。

千葉議員がおっしゃられますとおり、道の駅では令和3年度、それから令和4年度にリニューアル事業、これは運営協議会と市が主体となって実施をして参ったところでございますが、コロナ対策を含めた施設内整備を行ったところでございます。

この際、実施した内容につきましては、施設のリニューアル整備でございましたけれども、今後の目標戦略を見据えた事業であると、そのように考えておまして、情報発信はもちろんでございますけれども、地域経済活性化のため、市内の事業者さんに参入いただく環境構築の事業でもあると認識いただきたいと思います。

事業実施の効果といたしましては、飲食店の参入、それから、繁忙期の対面販売、土産品の常設販売の拡大など市内事業者の参入が促進されたこと、また、令和4年度につきましては、コロナ前の来場者数には戻っておりませんが、利用金額が過去最高実績になったと伺っております。

こうした環境を継続、発展させることで、にぎわいのある道の駅を目指し、南の玄関口としての役割を果たし、市内周遊はもちろんでございますが、交流人口をさらに拡大させることを目指しております。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

千葉議員。

●千葉 勝君 道の駅夕張メロウドは、夏のメロン時期は駐車場に入り切れないほどの多くの観光客が来ていますし、キャンピングカー等で来られた方は駐車

場で泊まっているのも見受けられますが、閉店以降、トイレが使用できない状況です。

いまだに JR 新夕張駅のトイレが利用できることが分からない観光客もいますし、冬期間は、除雪で道の駅駐車場と隣接する駐車場も狭く、大型バスでスキーに来て道の駅に寄りたくても、駐車できなく不便を感じているのではないかと考えます。

道の駅夕張メロードは、国道 274 号線沿いで、高速道路夕張インターチェンジからも近く、高速道路が事故や大雪で通行止めになると、国道 274 号に迂回しなければならず、長時間通行止めが続けば、道の駅夕張メロードで休憩する車両もあるかと考えます。

JR 新夕張駅のトイレを利用しなければならない不便さと、駐車場が狭く大型バスが駐車できないことを考えると、早急にトイレと駐車場の整備を行うことが重要かと考えます。

平成 30 年 9 月に発生した北海道胆振東部地震によりトイレが損傷し、使用不可能となり、撤去されてから 5 年が経過し、トイレと駐車場の整備は現在、国の関係機関と協議を続けているとのことです。

そこで、所信表明で市が先頭となって多方面と連携しながら取組を進めて参りますと表明していますが、令和 6 年度国の予算編成に向けて、どのような戦略で臨もうとしているのか、市長のお考えをお伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 ただいまの千葉議員の道の駅のトイレに関する再質問にお答えいたします。

具体的には、今、これまで国の担当部署との課題解決に向けた協議というものを行って参っておりますけれども、この国との協議につきましても、現在も親身になって継続検討いただいているところでございます。

また、昨年、令和 4 年の 11 月には、国土交通省、北海道開発局、札幌開発建設部長に対しまして、私から要望書を手渡しする、こういったことも含めまして、粘り強く要望してきているところでございます。

また、地元選出の国会議員の先生方にも、今、夕張市としてそのような要望を行っている旨、情報を共有

していただいているというところでございます。

千葉議員からの再質問にございましたが、国にとっても、本市の道の駅、これはトイレだけの課題ではなくて、ご質問の中にもございました本市の道の駅が国道 274 号線、それから 452 号線、この道路利用者及び高速道路と密接に関わってくる立地となっておりますことから、この道路利用者の重要な休憩拠点であるという認識はしていただいているところでございます。

したがって、今後はこうした経緯も踏まえて、千葉議員がご指摘のとおり、戦略を再構築しながら、引き続き、地域活性化の実現に向けてさらに力強く要望して参りたいと考えております。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

千葉議員。

●千葉 勝君 トイレ、駐車場の整備に向けて、市が先頭になって多方面と連携した取組を今後ともよろしく願いいたします。

次に、関係人口の創出についてお伺いいたします。

総務省の関係人口の定義は、関係人口とは移住した定住人口でもなく観光にきた交流人口でもない地域や地域の人々と多様に関わる人々のことを指しています。

そして、関係人口に注目する理由として、地方圏は、人口減少、高齢化により、地域づくりの担い手としてという課題に直面しているところもありますので、関係人口と呼ばれる地域外の人材が地域づくりの担い手となることが期待できると指摘しています。

第 2 期地方版総合戦略の関係人口創出の取組では、夕張市の人口は最大で約 12 万人いたこともあり、市外に多くの夕張出身者が存在すると考えられ、新たな人の流れを創出するまちづくりを進めていくためには、こうしたゆかりのある方々に加え、夕張に思いを寄せているなどの理由で、夕張市に多様な関わりを持つ方との交流を、市内及び都市部での交流イベントを年 1 回開催することを目標として、関係人口を増やす取組が重要であるとなっております。

コロナ禍で夕張にゆかりがある方々との交流ができなかったものと考えますが、戦略では市内及び都市部

での交流イベントを年1回開催することが目標となっております。

そこで、今後、関係人口を増やすためにどのような取組を行うお考えなのか、お伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 千葉議員の関係人口創出に関するご質問にお答えいたします。

人口が最大で約12万人おりました夕張市には、市外に多くの夕張出身者が存在してございます。

こうしたゆかりのある方々に加えまして、夕張に思いを寄せていただいているなどの理由で、多様な関わりを持つ方々との交流機会を増やすということが関係人口創出のために重要と考えてございます。

そのため、これまで全国各地の夕張会など、ゆかりのある団体でありますとか、夕張Likers!登録者の方々との交流の場を創出して参りました。

具体的には、総務省の関係人口創出拡大事業、モデル事業で、みんなで高める夕張コミュニティとして、NPO法人あ・りーさだの協力による沼ノ沢エリアをベースにしたイベントやワークショップの開催のほか、「みんなでつくる夕張の記憶ミュージアム」として、一般社団法人清水沢プロジェクトの協力によりまして、夕張の歴史、風景、暮らしぶり、文化などに触れていただく「清水沢まちあるき」などにおいて、参加者に夕張Likers!登録をしていただきながら、効果的かつ継続的な関係性を構築して参ったところでございます。

今後、これまでの関係性を継続しながら、市内外での交流イベントに参加していただけるよう、SNS等を活用した情報発信など積極的に働きかけて参りたいと考えております。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

千葉議員。

●千葉 勝君 関係人口を増やす取組で、既に存在する夕張会などのゆかりのある団体や夕張Likers!の登録の方々と、効果的かつ継続的に関係を継続し、全国に広がる多くの方がまちづくりに活用することができるよう、ふるさと納税と連携した仕組みづくりや情

報発信などの取組を検討し、地域との交流促進や地域への愛着の醸成につなげていく取組を行って、令和6年の夕張Likers!登録者数の目標値を1,000人としております。

そこで、戦略にもありますふるさと納税と連携した仕組みづくりや情報発信の取組のお考えをお伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 千葉議員の再質問にお答えいたします。

ふるさと納税と連携した取組でございますけれども、ふるさと納税の寄附者の皆様に対するお知らせに併せまして、夕張Likers!の取組でありますとか登録をPRしておりますほか、夕張Likers!のSNS、フェイスブック、それからX、インスタグラムからの市内外のイベント情報を発信しているところでございます。

また、ご承知いただいていると思いますが、道外で行っている物産展につきましても、単に夕張市の産品を販売するというのではなくて、観光のPR、それから夕張市へのふるさと納税の協力へのPR、これも併せて行っているということについてもご紹介させていただき、答弁とさせていただきたいと思います。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

千葉議員。

●千葉 勝君 今後とも、今答弁があったように、いろいろところで夕張のことをPRしていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

関係人口創出の取組で、平成30年から夕張Likers!という制度を導入し、SNSでの情報発信などを実施し、現在の登録者数は928名で、年々増加してきて、希望者には名刺を配布していると認識しています。

その名刺を持っていることで、石炭博物館、黄色いハンカチ想い出広場に入場時に、名刺を提示すると料金の割引を受けられますが、多くの夕張Likers!に夕張に来ていただくために、例えば名刺を持っていて、地元の飲食店等を利用した場合に、何らかの特典、割引サービスが受けられるようにしていくお考えについ

てお伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 千葉議員の再質問についてお答えいたします。

現在、議員のほうからご指摘がございました夕張 Likers! の名刺を提示することで、何らかの特典、いわゆる割引サービスということになるかというふうに思いますが、この取組の可能性につきまして、現在、地元事業者様と調整を行っているところでございまして、今後も調整を続けて参りたいと考えております。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。
千葉議員。

●千葉 勝君 ぜひ実現するように、関係団体と調整をよろしくお願いしたいと思います。

次に、地域と関係人口の交流促進についてお伺いいたします。

関係人口とは、地域や地域の人々と多様に関わる人々のことを指していると考えます。

夕張市では、人口減少や高齢化などにより人材不足が課題となっており、関係人口が増加することでともにまちづくりを行う人材となることが期待されています。

地域と継続的に関わることで、将来の移住、定住に結びつけていくこととして取り組まれていると認識しております。

夕張市は、平成30年度に、総務省、関係人口創出・拡大事業のモデル事業に採択され、歴史と文化の継承と集落コミュニティの再構築のテーマの二つの法人と連携し、関係人口と市民が一緒になって楽しめるイベントやワークショップ等を開設し、歴史文化の継承を学び、考えるイベントに、延べ120人、うち市外から76人の夕張 Likers! が参加。

市民とともに集落について考えるイベントには、延べ246人、うち市外から91人の夕張 Likers! が参加しました。

関係人口創出事業の継続に向けて、関係人口創出のきっかけとなる、その土地らしいテーマや歴史文化、

集落コミュニティという、夕張らしいテーマを設定したことで多くの方の興味を引く要素になりました。

また、イベントに市民もしっかり参画したことも関係人口創出への可能性を広げた、まちの歴史、地域課題、実情について知識や考えを深めることで市外から魅力に映る活動人口を生み出したと、平成31年2月の行政常任委員会で報告がありました。

今、地域、町内会は会員の減少、高齢化や役員の成り手不足や少子高齢化でコミュニティの衰退が深刻な課題であると考えます。

戦略にもあります各地域のコミュニティ機能が衰退することを避けるため、各地域のコミュニティ保持を図っていくとの施策もあるように、地域で活動する活動人口と関係人口が地域連携し、交流を継続的にやっていくことでコミュニティの衰退にもつながるのではないかと考えます。

そこで、地域課題について、町内会の活動と関係人口をつないで、集落コミュニティの再構築に向けた取組についてどのようにお考えなのか、お伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 千葉議員の再質問についてお答えいたします。

ただいま再質問をいただきました町内会などとうなぐ取組という考え方について答弁を求められているものと思いますが、これまでも沼ノ沢エリア、それから清水沢エリアなどにおきまして、町内会ともつながりを持った取組を行って参りました。

今後も、市内各地域の町内会ともつながるよう、夕張にゆかりのある方々に加えて、夕張に思いを寄せていただいている方々に対する積極的な情報発信を継続しながら、各地域との交流促進や地域への愛着の醸成につなげて参りたいと考えております。

なお、これについては、市が直接実施をした事業ではないのですが、先般「活かす炭鉄港」ということで、ヤマの記憶推進事業団が新しい取組をスタートされました。

これは、今まで炭鉄港の取組というのはそれぞれ各

地域にある構成文化財の活用、あるいは地域のいわゆるグルメも含めたPRを行いながら、日本遺産としてのストーリーというのを地域で感じていただきたいという取組だったのですが、次の一步を踏み出そうというお考えの下で、その「活かす炭鉄港」の取組が今始まったところでございます。

この内容についてなのですが、今、再質問いただきました関係人口というところと非常に密接しております。

と申しますのは、炭鉄港の構成文化財が保存されている地域というのは、押しなべて、今、人口減少、少子高齢化という同じ課題を持っていると、そういう中にありまして、やはり各個別の地域、地域ということではなくて、塊としてその地域の課題というものを解決していくために、関係人口の皆さんへのご協力、そういったものも積極的に図っていくという動きも今出てきておりますので、市といたしましては、炭鉄港事業の窓口であります地域振興課のほうでしっかりその辺りの情報収集をしながら、適時市として対応すべきところについては、そうした別の団体が実施する事業でもしっかり連携するということをやりたいと考えております。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。
千葉議員。

●千葉 勝君 今後とも、集落コミュニティーの再構築に向けた取組をよろしくお願いいたします。

市長は、所信表明の中で人口流出を課題の一つとして捉え、この解決に向けては行政、議会、市民が一体となったオール夕張の体制で取り組み、この状況を打開しなければならないと強い決意を述べています。

人口減少を止めるには、市外からの若者の転入促進、若者と子育て世代の転出を抑制する施策が重要と考えます。

今、市民の間で急激な人口減に苦しむ夕張に、ぜひラピダスの工場誘致を働きかけてほしいと署名活動が展開されていると、先日、新聞報道されていました。市長もご存じかと思います。

ラピダスの千歳進出は道民としては大変好ましいことと捉えることができ、夕張においても近隣のまちが巨大プロジェクトの核となることはよいことだと考えます。

夕張市は、札幌や新千歳空港から1時間強の距離であり、新千歳空港から富良野、旭川へ抜ける観光ルートの中に位置しているという地理的優位性も有していますので、このような地理的優位性のある夕張市にとって、ラピダス千歳に絡む事業を夕張市に模索することをぜひお考えいただきたいと思います。

夕張市の南の玄関口として、その果たす役割は非常に大きい道の駅、夕張メロートの魅力向上にはトイレと駐車場の再整備は重要かと考えますので、市が先頭になって課題解決に向けて関係機関との協議に取り組まれることをお願いして、私の質問を終わります。

●議長 大山修二君 以上で、千葉議員の質問を終わります。

次に、櫻井議員の質問を許します。

櫻井議員。

●櫻井 暁君（登壇） 日本共産党の櫻井暁です。では、通告に従いまして、3件、5点、質問いたします。

1件目、高齢者の加齢性難聴への対応についてです。

加齢性難聴における補聴器購入への支援について伺います。

加齢性難聴とは、加齢に伴い音を感じる部位に障害が起こり聴力の低下によって発生する障害で、40代から始まり、75歳以上では約半数が難聴に悩んでいると言われています。

こうした難聴の影響は、危険の察知や家族や友人とのコミュニケーションがうまくいかなくなるとともに、孤立し鬱状態や認知症の発症のリスクを大きくするとも言われています。

生活の質を維持し、社会交流を図りながら、住み慣れた地域で自分らしく暮らすためには補聴器が必要不可欠です。

補聴器は約4.5万円から50万円と、価格も性能も幅広いのですが、保険適用がないために全額個人負担

となっています。

年金生活者や低所得の高齢者にとって負担が大き過ぎるため、その一部でも経済的負担を軽減することが求められています。

全国では123自治体、北海道では赤平市、歌志内市、東神楽町、赤井川村など、15市町村が補聴器購入のための助成制度を実施しています。補助金の上限は、市町村の現状によって約2万円から5万円と様々になっています。

高齢化率54%の夕張市では、耳の聞こえで悩まれる高齢者も多く、低所得者では補聴器の購入をためらうということもあるという現状から、聴力が低下した場合の補聴器購入の補助制度を実現するお考えがあるか、伺います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 櫻井議員の加齢性難聴における補聴器購入への支援に関するご質問にお答えをいたします。

加齢性難聴者への補聴器購入補助につきましては、聴覚機能の低下が見られる高齢者全般に関わるものでございまして、令和5年度全国市長会における国に対する提言の中でも、後期高齢者や障害区分に限らず、加齢性難聴者等の軽中等度難聴者の補聴器購入に対する補助制度を創設することということで、補聴器購入に対する全国一律の公的補助制度の創設などを求めているところでございます。

本市といたしましては、この意向に従いまして、提言に対する国の動向を注視していきたいと考えてございます。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

櫻井議員。

●櫻井 暁君 要望になるのですが、例えば介護予防事業として、年間を通して行われている体操教室「ゆるりラ講座」、それだとか、地域サロンなどの集いの場で、参加者の皆さんに聞こえのチェックリストなどに回答してもらい、悩みなども含めて専門家につなげるなど、難聴の早期発見に務めることも重要と考えま

す。それが夕張市が目指している「健康寿命日本一」というキーワードにもつながると思います。

国の支援制度の拡充を求める提言をしたということでお伺いしましたが、聴力に障害のある人のみに補聴器購入の負担を強いるのではなく、聞こえる人、聞こえない人同士がコミュニケーションの取りやすい環境にするために、社会全体が支える仕組みとして公的助成を行う、そこに社会的意義があるのではないのでしょうか。

よく聞こえることで、日常生活の危険を察知でき、ストレスなく交流が図れるため、認知症を予防することもできます。

夕張市に住む半数以上の高齢者の安心・安全のために、補聴器購入への支援にぜひ前向きに取り組んでいただきたいと思います。

次に、2件目の地域防災についてお伺いします。

1点目、障がい者、妊婦、要介護者などの避難困難者への対応についてです。

私は、前回の一般質問で、災害時のペットへの対応をお聞きしたところですが、市のホームページに12月1日付で災害時のペットとの同行避難について周知されましたこと、まずは大変うれしく思います。

避難が困難という点では、ペットと暮らしている方々よりもさらに大変になるのが障害を持つ方々、妊婦さん、介護が必要な高齢の方です。

災害が起きた際のそのような避難困難者への対応は、より一層の配慮が必要と考えますが、どこかの避難所にどう向かうかなど、具体的な避難方法の周知と避難時の対応について伺います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 櫻井議員の避難困難者への対応に関するご質問にお答えをいたします。

災害発生のおそれがある場合、または災害発生後、市は災害対策本部を設置いたしまして、地域の方々に広報車等による避難広報、それから防災メール、各町内会への電話などによりまして、具体的な避難方法や避難時の対応など必要に応じて、避難情報を伝達いたします。

議員ご指摘のとおり、障害者、それから妊婦、要介護者などの避難に際しましては、一定の配慮が必要でありますことから、できる限り丁寧に情報を周知して参りたいと考えているところでございます。

しかしながら、災害発生は予測できないという部分がございます、避難支援者にも限りがありますことから、また非常持出品、それから備蓄品の確保、防災マップを活用した避難経路及び避難所等の確認、これをあらかじめ行っていただくということが防災対策上、効果があると考えてございます。

この点に関しましては、今後も防災講話でありますとか、防災訓練など様々な機会を通じまして、こうした自助・共助の重要性について、市民の意識醸成に努めて参りたいと考えております。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

櫻井議員。

●櫻井 暁君 地域で支え合う共助の仕組みが、これからはより大切になっていると考えています。市民に配布されている夕張市防災マップには、指定避難所は12か所、生活館などの避難所は11か所、合わせて23か所で、そのうちの1か所、紅葉山の老人ホーム紅葉園さんが福祉避難所になっています。

福祉避難所とは、高齢者や障害者などの一般の避難所での生活が困難な方々を受け入れるための避難所です。紅葉園さんでは、介護スタッフが対応し、24名の受入れが可能とのお話でした。高齢化率の高い夕張市ではさらなる福祉避難所の創設が必要と考えますが、現時点での福祉避難所の検討状況についてお聞きします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 櫻井議員の再質問にお答えいたします。

福祉避難所についてでございますが、現在、社会福祉協議会と災害救援活動の支援、いわゆるボランティアでございますけれども、これに関する協議を行っているところでございます。引き続き、福祉避難所の増設について取り組んで参りたいと考えております。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

櫻井議員。

●櫻井 暁君 福祉避難所は、配慮が必要な方の特性に応じてスムーズな利用ができるように介護者が必要であることなど、体制の整備が難しい面等あるかと考えますが、ぜひ実現していただきたいと思います。

また、夕張市では、災害が発生した場合、消防や行政機関が対応する前に、地域の助け合いによって避難を行うための避難行動要支援者支援制度という制度があり、利用するには申込み手续が必要となっておりますが、よく知らない任意の協力なので、災害の混乱した状況で実際に使えるのかという疑問も上がっています。

この避難行動要支援者支援制度について、周知方法と対象者はどのくらいいるのか。また、申込み状況をお聞きます。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 櫻井議員の避難行動要支援者名簿に関するご質問にお答えいたします。

本市におきましては、災害対策基本法及び市防災計画に基づきまして、平成24年10月からこの名簿を作成しております。主な対象者の方でございますけれども、まず75歳以上の独り暮らしの方、次に要介護3以上の方、次に障害者手帳の認定を受けている方などでございます、対象者は全体で約1,700人おりますけれども、このうち約630人の方々から提出をしていただいた同意書に基づきまして、警察、消防、それから民生委員、児童委員、加えて社協でありますとか地域防災組織、こういった方々と災害対策基本法で定められました避難、支援等関係者に対しまして、災害の発生に備え、平常時から名簿情報、この提供を行っております。

なお、民生委員、児童委員でありますとか、市ホームページを通じて市民周知を行い、この名簿への新規登録を呼びかけておるほか、新たに対象になった方々に対しましては、直接通知書を郵送するなど、今後につきましても避難困難者の安全確保に配慮して参りたい

いと考えているところでございます。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。
櫻井議員。

●櫻井 暁君 私が調べましたところ、避難行動要支援者支援名簿は、民生委員さんにより令和3年3月にまとめられたとお聞きしましたが、個人情報でもありますので、どのように活用するのか、名簿を作りっ放しにはしていないかというところが気になります。

他市町村の事例では、その名簿を使った図上訓練をしています。参加者は、自主防災組織、町内会長、民生委員、消防団などで、町内会単位の白い地図にフィルムをかけたものを使って書き込むそうです。

まず、避難行動要支援者のお宅にシールを貼り、次に危険箇所印をつけ、次に避難所に丸印を記入する。最後に、避難ルートの記入をそれぞれ行った後、支援の優先度を町内会単位で話し合ったということです。このような方法で地域の情報の見える化ができ、情報共有が進んだということです。

また、避難訓練に備えて、地域支援者向けの介護実技講習会を開いているというところもあります。保健師や介護士を講師に迎え、車椅子の使い方や担架のつくり方、移動時の注意点、声がけの方法などを学び、心構えを深めたということです。

要支援者を含めた避難訓練は難しいということでも、それを支える支援者への働きかけをすることで少しでも被害を防げるのではないのでしょうか。

災害はいつ起きるか分かりません。大切な共助の部分で、現在の制度を有効に活用できる早急な体制づくりを求めます。

次に、2点目の避難所での環境整備について伺います。

市民の方から、実際の避難所にどんな整備が整っているのか、設備があるのか分からないという声をお聞きしています。特に在宅酸素療法者、人工肛門や人工膀胱のあるストーマ利用者などは、電源設備や酸素ボンベ、個室の確保が必要であると思いますが、本市の避難所ではこれらの環境が整備されているかどうかを

伺います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 櫻井議員の避難所での環境整備についてのご質問にお答えいたします。

在宅酸素療法者でありますとか、ストーマ使用者の避難所における環境整備につきましては、各避難所に電源設備として発電機を整備しておりますほか、プライバシーを保つことができるテントを備蓄してございます。避難所によりましては、教室などを使用することによりまして、個室を確保することも可能と考えております。

この在宅酸素でありますとか、ストーマ用品などの医療器材や附属品等につきましては、あらかじめかかりつけ医など専門機関に相談をして、各自が備蓄品として準備することが重要であると考えておりまして、こうした点につきましても、防災講話等で住民周知に努めて参りたいと考えております。

また、医療機材等につきましては、必要に応じて医療機関でありますとか、支援スタッフ等に対応を要請するほか、避難所から福祉避難所や医療機関等に移動していただく場合も想定しておるところでございます。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。
櫻井議員。

●櫻井 暁君 様々な対策と整備がなされているということが分かりました。自助という点では、在宅酸素療法者であれば、日常から持っている携帯用酸素ボンベの残量の確認と配送の依頼、処方流量の緊急災害時に持ち出す手帳などに記入しておく。また、予備のカニューラや携帯用酸素ボンベ用の電池を準備しておく。そして、呼吸リハビリテーションとして、呼吸法の指導を医療者から受けておくということ。

また、ストーマ利用者では、災害用として約10日分のストーマ装具と装具交換に使用するものを非常持出し袋などに入れて備蓄する。また、可能ならば、身内などの家に数枚保管してもらおう。そして、ストーマ用具や汚れ物を洗うためのオストメイトトイレのある場所を確認しておくなど、命をつなぐためにそれぞれ

が備えなければならないことを明確にし、備えとして個人が準備できるのはどの程度か、どこから支援が受けられそうかが分かるだけでも、ご本人の安心につながります。

避難所の状況として、トイレは和式か洋式か、多機能トイレはあるのか、足腰の機能が低下した高齢者や下肢に障がいのある人にとっては、段ボールベッドがあるかどうかも重要です。

また、発達障害のある人の中には、気持ちを落ち着かせるためのパーソナルな空間が必要な方もいます。事前に何も分からずに避難をする場合、やっとなことで避難所にたどり着いても、その場で引き返さなければならないこともあるそうです。

高齢者だけでなく医療的ケアが必要な子どもも人工呼吸器や吸引器などの電源の確保が必要であり、高齢者も障がいのある子どもたちとその家族も災害時に安心、安全に避難できるようにすることが必要です。そのためには、公助としてどんな機能が備わっているのか、事前に公表しておくことが理想だと考えます。

実際に災害が起こりにくい地域での防災を市民一人ひとりが自分事にするために、避難所環境についてのきめ細かな情報発信を求めます。

続いて、3件目の市外線デマンド交通について伺いますが、よろしいでしょうか。

●議長 大山修二君 どうぞ。

●櫻井 暁君 1点目、市外線デマンド交通の運行状況についてお聞きします。

市外線デマンド交通の実証実験が10月から開始されていますが、実証実験開始から現在までの利用者数と利用率について伺います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 櫻井議員の市外線デマンド交通の運行状況に関するご質問についてお答えをいたします。

市外線デマンド交通につきましては、夕張市から栗山町経由で長沼町までを1日4往復、片道にいたしますと8便運行してございますが、この実績が確認できております10月の1か月間の利用者数でござい

ます。延べ387名、設定をいたしました便数に対しまして、何便運行したかという運行率につきましては、設定便数が延べ248便。これは1日8便の31日という計算をしておりますが、この設定便数延べ248便に対しまして、運行便数は延べ146便ということになっており、率で申し上げますと58.9%となっております。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

櫻井議員。

●櫻井 暁君 私も10月に利用してみたのですが、午後の便だったために、貸切りで自分のほかに乗った方がおらず、もったいなく思っておりました。

運転手さんも、もう少し乗ると思っていたのに利用が少ない、ワゴン車で十分な人数だからまだマイクロバスを使っていないとお話だったので、少しずつ利用が増えてきているのでしたら、安心しています。

そして、気になるお話があります。JRがトラブルで運休になっては困るので、一応デマンド交通を予約し、JRに乗れることができたなら、デマンド交通をキャンセルしているというお話です。無事に目的地にたどり着くための知恵ではありますが、もし、利用者がその方だけであれば、車両は空で走ることになり、諸費用の無駄が生じる可能性もあります。そのような事例もあることを理解の上、キャンセル時のルールづくり、また、委託業者の受け付け対応方法など、今後の検討につながればと思います。

最後に、2点目のデマンド交通についての現時点までの利用者からのご意見、ご要望がどの内容であるのか。また、それを踏まえて今後どのように対応していくのか。変更が可能かどうかを伺います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 櫻井議員の市外線デマンド交通の利用者の皆様からのご意見やご要望についてに関するご質問にお答えをいたします。

10月からのデマンド交通実証実験運行の開始に当たりまして、9月に市内6会場で実施した説明会、また10月の運行開始後も含めまして、市民の皆様、利用者の方々から多数ご意見やご要望をいただいております。

その内容といたしましては、まず運行間隔が長いので、1日当たりの運行回数を増やしてほしいというものの。

また、乗車定員が9名となっております第2便、第4便の乗車定員を、第1便、第3便と同様の24名にしてほしいと、こういったご要望のほか、市内で本デマンドが走らない地区の住民の方からは、本デマンドの第1便に乗るための移動手段がないとのご意見もいただいております。

こうしたことから、今年度内には利用者の方々にアンケート調査を実施することを予定しておりますので、まずは様々な課題把握に引き続き努めて参りたいと考えております。

その上で、4月からの本格運行実施に向けましては、少しでも利便性がよくなるよう可能な限り改善に向けて、検討して参りたいと考えておりますけれども、持続可能な公共交通として運行していくということが今一番重要でございますことから、本デマンドの運行内容を変更する場合は、交通事業者に過度な負担がかからぬよう、十分協議をしていく必要があると考えております。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

櫻井議員。

●櫻井 暁君 内容が重複するかもしれませんが、地域でお話をしたときに耳にしたのが、急に調子が悪くなり病院へ行きたいというときに行けるように、空きがあるなら当日予約ができるようにしてほしい。

また、最寄りのバス停まで行くのがまず大変なため、近所の人やお友達にお願いをしたりしている。登録はしたが、予約に戸惑って使っていない。病院に行く予定だが、帰りの見当がつかないので、娘の車を何とか頼もうと思っているなどの声です。

新しいシステムに戸惑っている方もいる一方で、逆には、最初はどうなることかと思ったけれど、慣れてきたのでとても助かっている。乗継ぎに50分ぐらい待つことにはなっても、車を出してもらえるだけでありがたい。止まる場所が分からなかったけれど、運転

手さんが合図をしてくれて助かった。4月からどんなふうに使いやすくなるのかゆっくり待っていますなど、肯定的なご意見もあります。

運転手さんも、これからもっとよくなるための実証実験ですからとおっしゃっていました。限られた人員と車両、そして予算の中でできることと、できないことはあるかと思いますが、ご意見を参考に検証や見直しがよいものになるよう、期待しています。

そして、利用者に向けてのアンケート調査も実施するということでしたので、その内容はしっかりと市民にお返しし、お伝えする場を設けた上で、今後の方針をお知らせすることを強く求めまして、私の質問を終わります。

●議長 大山修二君 以上で櫻井議員の質問を終わります。

●議長 大山修二君 申し上げます。ここで午前の会議を終わり、午後1時まで昼食休憩といたします。

午前11時51分 休憩

午後 1時00分 再開

●議長 大山修二君 休憩前に続き会議を再開いたします。

それでは、次に君島議員の質問を許します。

君島議員。

●君島孝夫君(登壇) 君島孝夫です。通告に従い、2件、3点について質問をいたします。

件名は、地域共生社会の実現に向けて地域福祉計画の策定について、質問いたします。

社会全体が少子高齢化や核家族化の進展、地域住民相互のつながりの希薄化など、地域や家族を取り巻く環境が大きく変化する中で、地域では住民相互の支え合いや助け合い、そして自立した生活を支援する福祉サービスや地域ぐるみの福祉活動などによって、誰もが安心して暮らせる福祉コミュニティをつくることが求められています。

また、今後の社会福祉の基本理念の一つとして地域

福祉の推進を掲げ、地域福祉事業者、そして社会福祉を行う者は、相互に協力し、地域福祉の推進に努めなければならないとされており、こうした地域福祉の推進のため、厚生労働省は、平成30年4月に社会福祉法の一部を改正して市町村地域福祉計画の策定を市町村に努力義務化したところです。

一部改正施行から5年が経過した現在、道内179自治体の中、111の市町村が地域福祉計画を策定済みです。地域共生社会の実現には、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながり、住民の一人ひとりが暮らしと生きがい、地域をつくる社会を目指すシステムづくりが重要と考えております。

そのため、地域生活課題を明らかにし、多様な関係機関と連携、役割などの体制整備、目標設定を掲げる市町村地域福祉計画を策定する必要があると思いますが、現在の取組状況について、市長にお伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 君島議員の地域福祉計画の策定に係る本市の取組状況に関するご質問にお答えいたします。

議員ご指摘のとおり、これまでの対象者別の縦割りの支援ではなく、高齢者、障害者、子ども等に対する横断的な支援体制をつくるなど、地域福祉の推進を図るため社会福祉法の一部改正がされ、平成30年4月に同法が施行されているところでございます。

改正の主なポイントでございますが、まず住民相互の支え合い機能の促進や、次に複合的な地域生活課題に対応する包括的相談支援体制の整備などでございまして、市町村は地域福祉計画の策定に努めるよう改正が行われたところでございますが、現時点で本市は未策定となっております。

なお、この計画の策定状況につきまして、令和4年4月に厚生労働省が全国の市町村を対象に実態調査を行いましたところ、人口規模の大きな市町村ほど策定率が高い傾向があり、人口減少が著しい空知管内の市、町における策定率は約29%でございます。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

君島議員。

●君島孝夫君 市内では高齢化が進み、町内会組織のいわゆる地域力やマンパワーが不足している地域がある中、助け合いや支え合いを推進するのはとても難しいことです。

また、少ない職員で市町村地域福祉計画を策定することは大変だと思いますが、計画策定に当たり、本市ではどのような課題がありますか。市長にお聞きします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 君島議員の地域福祉計画策定の課題に関するご質問にお答えいたします。

地域福祉計画の策定に当たりまして、市民、行政、福祉活動団体などが協働し、課題解決のためにともに役割を果たしていく仕組みづくり。次に、計画策定のための人材確保及び施策推進のための財源確保、こうしたものが主な課題であると考えているところでございます。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

君島議員。

●君島孝夫君 現時点では地域福祉計画は策定していないとのことですが、人口減少と高齢化が進む中、地域福祉や住民自治において課題は山積していると思いますが、その課題解決に向けた具体的な取組はありますか。市長にお聞きします。取組について、ございますか。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 君島議員の再質問にお答えいたします。

地域で解決できる仕組みづくりにつきましては、やはり、市民間の支え合いや助け合いの意識の醸成が必要であると考えております。本市では、保健福祉課所管の生活支援体制整備事業、これを通じまして互助の拠点となる地域サロン活動を推進しておりますほか、生活支援サポーターによる幸せのちょっとしたお手伝いや困り事に対する支援を行う生活支援サポーターの

養成などを通じて、支え合いや助け合いの意識について取組を進めております。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

君島議員。

●君島孝夫君 市として、今後市町村地域福祉計画について策定する考えがあるのかどうか、もしあるとしたらどのようなスケジュールなのかをお伺いします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 君島議員の地域福祉計画策定の今後の予定に関するご質問にお答えいたします。

社会福祉法に規定する地域福祉計画は、高齢者、障害者、子どもなどの福祉分野の最上位に位置づける計画となります。先ほど申しあげました策定に関する課題もありますことから、現時点では策定する予定はございません。

本市といたしましては、まずは高齢者、障害者、子どもなどの個別計画に基づいて、地域共生社会の実現に向けた地域生活課題の把握や、その支援を行う関係機関との連携を深めるとともに、他市町村の取組状況など情報収集に取り組んで参りたいと考えております。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

君島議員。

●君島孝夫君 ありがとうございます。再質問ではありませんが、現時点では策定する予定はないとの答弁でございますが、空知地区で約30%の市町村が策定しており、努力義務ではありますが、夕張でも将来を見据え地域福祉計画の策定に取り組むべきではないかと申し上げます。

議長、次の質問に入ってよろしいですか。

●議長 大山修二君 はい。

●君島孝夫君 次の質問は、市内観光の推進について。質問の要旨は、観光推進体制についてお聞きいたします。

第2回定例会で、一般社団法人夕張市観光プロモーションに地域おこし協力隊を所属させ、関係団体との連携強化、観光振興の担い手となる強力なリーダーの

一人となることを期待すると答弁されましたが、進捗状況をお伺いします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 君島議員の観光推進体制についてに関するご質問にお答えいたします。

観光促進支援に関する地域おこし協力隊につきましては、公募をしていたところでございますが、本年12月1日から1名、採用となっております。

君島議員ご承知のとおり、市からの委託により、一般社団法人夕張市観光プロモーションに所属しておりますが、所属する組織にとらわれず、観光関係団体と協働しながら活動することを期待しております。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

君島議員。

●君島孝夫君 観光団体との協働ということですが、具体的にはどのような活動を考えているのか、お伺いします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 君島議員の観光関係団体との協働に関する再質問にお答えいたします。

主な活動といたしましては、各団体で開催している市内イベント等への支援を通じた協働を考えております。

また、こうした活動を行っていただきながら、観光関係団体との連携について、橋渡し役となっていただけのような役割を果たしていただけることを期待しております。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

君島議員。

●君島孝夫君 市内イベント等の支援活動や橋渡し役とのことですが、協力隊の活動を円滑にサポートするためには、調整役が必要ではないかと思いますが、市長いかがでしょうか。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 君島議員の協力隊の活動の調整役に関する再質問にお答えいたします。

協力隊の活動調整につきましてですが、これは市が委託しております一般社団法人夕張市観光プロモーションが実施するものでございますが、その中でも、市が期待しておりますほかの観光関係団体との協働にしましては連携が円滑となるようサポートを市が担うこととして参りたいと考えております。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

君島議員。

●君島孝夫君 ありがとうございます。協力隊の活動が夕張市の観光事業推進に結びつくことを期待して、この質問を終わります。

議長、次の質問に入ってよろしいですか。

●議長 大山修二君 はい。

●君島孝夫君 続いて、マウントレースイススキー場の活用について、お伺いいたします。

昨日、マウントレースイススキー場において、安全祈願がなされたとのことを聞いております。マウントレースイススキー場については、今後も安定して事業が継続できるよう、市も積極的に事業者とも協力して、近隣からのスキー遠足など団体利用の誘客促進をしていくべきだと思いますが、市長の考えはいかがでしょうか。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 君島議員のマウントレースイススキー場への支援についてに関するご質問にお答えいたします。

君島議員のおっしゃられますとおり、スキー場への団体客誘致は必要と考えております。市といたしましても、問合せがあった際の対応はもちろん、様々な場面において積極的にPRを行い、誘客促進に努めて参りたいと考えております。

なお、昨日の安全祈願祭でも若干ご紹介をさせていただいたのですが、市の対応というより、私も市長として市外に出向くこと、あるいは会合に出る機会が多いものですから、そういった機会を通じて、一例を挙げますと、陸上自衛隊の冬季演習としてレースイをご利用いただきたいといった要請も含めて、機会があれ

ば、そうしたことも含めながら、PR、誘客を市としてもこれからも努めさせていただきたいと思っております。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

君島議員。

●君島孝夫君 陸上自衛隊の活用だと、大変いいことだと思っております。スキー場を活用したイベントの実施についていろいろなことをすべきだと思いますが、今後どのようなことを考えているか市長にお伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 君島議員のスキー場を活用したイベントの実施に関する再質問にお答えいたします。

スキー場を活用したイベントの実施につきましては、現在、スキー場を運営しております民間企業において検討を実施するものと考えてございますが、交流人口の拡大や市全体のにぎわいにもつながるものと考えますので、イベント開催に当たってのPRなど、市としてもできる限りのご協力はさせていただきたいと考えております。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

君島議員。

●君島孝夫君 ありがとうございます。再質問ではありませんが、今、各地で観光客の来場が回復しております。この機会を逃がさないように、今後、夕張でもいろいろな面で発展をしていってもらいたいと思います。

以上で私の質問は終わりにします。ありがとうございました。

●議長 大山修二君 以上で、君島議員の質問を終わります。

次に、荒井議員の質問を許します。

荒井議員。

●荒井周司君（登壇） 初めての質問になります。荒井周司です。よろしくお願いいたします。

通告に従いまして1件2点の質問をいたします。

私からは、ふるさと納税について。平成20年より

始まりましたふるさと納税ですが、夕張市は初年度222件、2万8,219円を皮切りに、平成22年度より平成24年度あたりは減少したものの、以降、右上がりです。令和4年度には4億円を超え、過去最高額となり、空知管内24市町村の中で7位を記録し、本当にすばらしい業績だと認識しております。

しかし、美唄市17億2,000万円や滝川市17億3,200万円、三笠市17億9,500万円など17億円を超える市などもあり、金額の多寡、順位を競うものではないですが、夕張市にとって貴重な収入源であると存じます。

そこで、今年の10月1日より法の改正により50%以内に収めないといけない費用に対して、夕張市の影響について伺います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 荒井議員のふるさと納税返礼品に関するご質問にお答えいたします。

議員ご指摘のとおり、ふるさと納税制度の令和5年度改正によりまして、10月1日から募集費用総額5割以下基準や地場産品基準が一部改正され、寄附額変更や返礼品が指定取消しとなる自治体もあったというふうに聞いております。

募集費用総額5割以下基準の改正におきましては、対象となる事務経費が追加されましたけれども、本市におきましては、既に対象経費に含めているものでありますため、影響はございませんでした。

また、地場産品基準の改正におきましても、現在総務省による確認作業が進められているところでございますが、現時点で指定取消しとなった返礼品はございません。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

荒井議員。

●荒井周司君 影響はないとのことでしたが、今後、さらなる寄附の獲得に向け、広告などを拡大するに当たり費用はかさんでくることになるかと存じます。

そこで、現在ふるさとチョイスや楽天市場など、インターネットで夕張市のふるさと納税を見ますが、インターネット以外にはどのようなPRの方法を、また

リピーター獲得に対しての取組などがあれば教えていただけますか。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 荒井議員の再質問についてお答えいたします。

インターネットサイト以外でのPRにつきましては、市内各所や各種イベント等でのポスターの掲示やパンフレットの配布を行っております。また、前年度にご寄附を頂いた方に対しましては、寄附金活用事業の報告パンフレットをお送りするほか、各種SNSを活用した情報発信を積極的に行うことで、リピーターとなつていただけるようPRをしているところでございます。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

荒井議員。

●荒井周司君 美唄市では、美唄市のふるさと納税だけに特化した「びばふる」をはじめ、ふるさとチョイス、ANAのふるさと納税など、7つのサイトがあります。

滝川市では、13個のサイトに登録しており、三笠市では8つのサイトに登録があります。また、3億1,000万円の岩見沢市は2サイト、3億6,000万円の深川市ではふるさとチョイスのみだったり、3億3,000万円の栗山町では6サイトと、登録サイトに登録しております。登録サイトが全て結果に表れるとまでは言いませんが、現状の二つだと限界も近いと思います。

地域振興課では、現在思いつくことは全て行動、また結果も出していることとは思いますが、今後ふるさと納税の分野でも力を入れるお考えであれば、ふるさと納税に特化した課を設けるなり、ヒューマンリソースの補填なども視野に入れる善処が必要だと考えます。市長のお考えをお伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 荒井議員の再質問にお答えいたします。

現在夕張市は、ふるさとチョイスと楽天ふるさと納税の2つのインターネットサイトを活用しながら、主に担当職員1名と、会計年度任用職員によりまして登

録、募集、受付、配送、問合せに至るまで、あらゆる業務に対応しているところでございます。

令和4年度におきましては、全国から1万8,034件、総額約4億円のご寄附を頂きました。今後も現在の体制を維持しながら、これまでご寄附を頂いた皆様との関係性を継続して参りますとともに、これまでもいろいろな場面でご協力をいただいておりますし、ふるさと納税のPRもいただいていると思うのですが、これから行政、議会、市民が一体となって、この新たな寄附者の獲得に向けて、効果的な取組を行って参りたいと考えております。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

荒井議員。

●荒井周司君 今後さらなる獲得に向けて、1名だと、どんどん辛くなるというような状況を考えますが、次のふるさと納税返礼品取扱事業者について質問を移らせていただきたいと思います。

令和5年6月1日より30日まで、夕張市ふるさと納税返礼品開発支援補助金について、募集には何者集まりましたか。成果をお伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 荒井議員のふるさと納税返礼品取扱いに係るご質問にお答えをいたします。

12月1日現在、3者からの申請がございまして、それぞれの事業実施計画に基づき開発が進んでいるところでございます。

また、申請の内訳でございますが、既存の事業者が1者、新規の事業者が2者となっております。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

荒井議員。

●荒井周司君 新規企業が2者、企業を受け入れることはもちろんですが、行政からも企業に働きかけることによって地域の企業の活性化につながり、また互いの視野も広がることと思います。

現在あるものだけではなく、これからあったほうがよいものなどを提案できるような、行政からも企業に

寄り添うようなことを望むのですが、このような取組は現在ありますでしょうか。

●議長 大山修二君 答弁調整のため、暫時休憩いたします。

午後 1時26分 休憩

午後 1時27分 再開

●議長 大山修二君 会議を再開いたします。

荒井議員に申し上げます。ふるさと納税について、要旨、取扱事業者について、具体的内容の中で、地場産品を返礼品として扱うことは市内事業者の振興にもつながり云々と、ここの本旨の質問から入っていただきたいと思います。

挙手、お願いします。

荒井議員。

●荒井周司君 ふるさと納税返礼品取扱事業者について、地場産品を返礼品として扱うことは、市内事業者の産業振興にもつながり、寄附のさらなる獲得にも外せないものと考えますが、新規参入や新商品開発について市長はどのような考えで取り組まれているのかをお伺いいたします。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 荒井議員のふるさと納税返礼品取扱事業者に関するご質問にお答えいたします。

地場産品をふるさと納税の返礼品に登録していただくことは、各事業者の皆様にとって販路の一つになるだけではなく、夕張市のPRや産業振興につながっているものと考えてございます。今後も、新規参入や商品開発についても積極的に取り組みながら、産業振興とともに更なる寄附の獲得につなげて参りたいと考えております。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

荒井議員。

●荒井周司君 現在、夕張市には登録している返礼品が116件ほどあり、稼働は様々と存じておりますが、需要の見られない商品に対しての打切りや更新時期な

どの基準は設けておられますでしょうか。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 荒井議員の再質問についてお答えいたします。

基準ということでございますが、市からの打ち切りということについては、まず考えておりません。それで、市の産業を振興する立場として、需要の少ない返礼品などにつきましても、今後、事業者の皆様へ寄り添いながら、内容の見直しでありますとか、PRの強化に取り組んでいくということが必要というふうに考えてございます。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問ありますか。
荒井議員。

●荒井周司君 先ほども申し上げましたが、ふるさと納税の発展を強化することにより、夕張市への企業誘致にもつながり、商工会議所や地元の企業への活力へとつながる現在の政策をよりグローバルに取り組んでいくべきかと思えます。これからも新規参入企業を積極的に取り入れ、夕張からの発信を多くの方に知ってもらい、地域の活性化につながる魅力のある返礼品の開発への努力を継続してもらいたいと思えます。ありがとうございます。

●議長 大山修二君 以上で、荒井議員の質問を終わります。

次に、徳谷議員の質問を許します。

徳谷議員。

●徳谷康憲君（登壇） 徳谷康憲です。通告に従い、移住定住政策について、2点ほど質問いたします。

まず、1点目、空き家についてです。コロナ禍によりリモートワークが普及し、空き家を探す人が全国で増えているが、夕張市の空き家バンクのこれまでの実績を伺います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 徳谷議員の移住定住政策に係る空き家バンクの実績についてのご質問にお答えいたします。

夕張市は、平成28年度に開設されました北海道空

き家情報バンクを活用しているところでございます。これまでの実績は、新規登録3件、成約が2件となっており、現在、紅葉山地区で1件登録されている状況でございます。

夕張市といたしましては、空き家バンクを設置していないため、相談があった場合、市内不動産業者及び先ほど申し上げました北海道空き家情報バンクの情報提供をしていくところでございます。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。
徳谷議員。

●徳谷康憲君 先ほど空き家バンクに1件登録と市長が言われましたが、私が見たところ1件は賃貸中となっていたので、厳密には空き家ではないのかなと思います。

ちなみに隣の栗山町では、現在北海道栗山町空き家バンクというものがあり、現在11件の空き家が登録されています。由仁町におきましては、由仁町の「ゆに住まいNavi」というところには、現在6件の空き家が登録されています。

これらの事例を見習って、夕張市もさらに空き家を登録することを市民に周知するべきではないかと思いますが、市長の考えを伺います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 徳谷議員の再質問にお答えいたします。

夕張の現状といたしまして、管理者のいない、いわゆる放置空き家が増加傾向にあるものと推測をされ、今年度、空き家実態調査を行っているところでございます。空き家問題は全国的な問題でもありますことから、利活用の促進、放置空き家の減少、これをまず目指して参りますとともに、これからも適切な対応を行って参ります。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。
徳谷議員。

●徳谷康憲君 再質問ではありませんが、現在夕張市のコンパクトシティ構想と空き家対策は相反する部

分もあり難しい問題ではあると思いますが、市民と協力し、ぜひ前向きに空き家対策を進めていただきたいと思います。

議長、2点目の質問をよろしいでしょうか。

●議長 大山修二君 どうぞ。

●徳谷康憲君 それでは、2点目の質問をいたします。

空き家と人のマッチングについて。空き家バンクの活用を進めるのは当然といたしまして、市外の人に来てもらうためにも、空き家をお試し住宅にするなどして、人を増やすことは必要だと考えます。市長の今後の対応を伺います。

●議長 大山修二君 厚谷市長。

●市長 厚谷 司君 徳谷議員の空き家と人のマッチングについてのご質問にお答えいたします。

徳谷議員のご質問の趣旨につきましては、移住体験住宅の確保に係るご質問であると思いますが、交流人口の増加、人口減少対策の一助になる取組ではあると考えております。

しかしながら、市で管理している市営住宅は築40年以上経過をしております、老朽化が著しい住棟が多く、移住体験を実施するには、住宅のリフォーム、家電製品等の家財道具を市で用意しなければならず、多額の費用を要するものでございます。

また、空き家バンクに登録された個人住宅を活用する場合でも、市が住宅を買い取る必要がございます、さらなる費用の増加が見込まれるものでございます。

現在、移住体験を希望する需要を明確に把握することは困難な状況ではございます。夕張市としては、需要が明確でない事業に先行投資的な経費をかけるより、効果的と判断できる市営住宅等の環境改善、交流人口の増加に向けた取組を進めるべきと考えているところでございます。

以上でございます。

●議長 大山修二君 再質問ありませんか。

徳谷議員。

●徳谷康憲君 再質問ではありませんが、私は、ちょうど8年前に夕張市役所を訪れ、市の職員に築100

年を超える空き家を紹介していただき、小さいながらも事業を開始し、そして市議会議員にまでなることができました。今後も市外から有望な人材を集めるためにも、ぜひとも移住政策に力を入れていただきたいと思います。

私の質問は、以上になります。

●議長 大山修二君 以上で、徳谷議員の質問を終わります。

以上で、通告されました質問は全部終了いたしましたので、日程第1、一般質問はこれをもって終結いたします。

●議長 大山修二君 以上で、本日の日程は全て終了いたしました。

本日は、これをもって散会いたします。

午後 1時39分 散会

地方自治法第123条第2項の規定により、ここに署名する。

夕張市議会 議長 大山 修 二

夕張市議会 議員 高 間 澄 子

夕張市議会 議員 徳 谷 康 憲